

オプション検査を活用して 「ピロリ菌」を退治！

「いつでもおいしく食べられる健康な胃を」

ピロリ菌感染とそのリスク

ピロリ菌（ヘリコバクターピロリ）は胃の粘膜にすみつき、胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃がん等を発生させる因子の一つとされる病原菌です。ピロリ菌に感染していると、ピロリ菌が出す毒素によって粘膜の組織が壊され、胃潰瘍や慢性胃炎（ピロリ感染胃炎）を起こします。

慢性胃炎のうち、粘膜が薄っぺらくなる胃炎を萎縮性胃炎といい、胃がんが発生しやすい状態とされています。ピロリ菌感染から萎縮性胃炎の経過をたどらずに胃がんが発生することもまれにあります（図）。

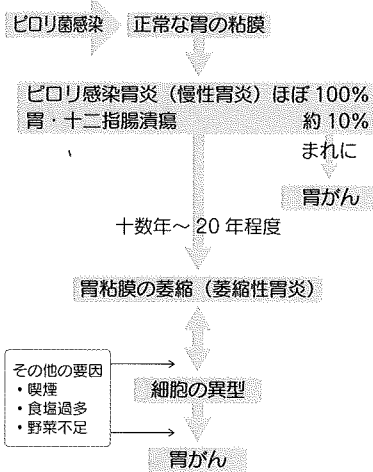
ピロリ菌除菌治療の有効性

現在、日本では毎年約13万人が胃がんを発症し、年間約5万人が死亡していると考えられています。そして、胃がんになった人の95%以上がピロリ菌に感染していることがわかっています。また、ピロリ菌に感染している人の約8%が75歳までに胃がん

になると推定されており、ピロリ菌の感染期間が長いほど胃がんを発症しやすくなります。そのため、ピロリ菌を除菌することによって、胃がん発生のリスクが下がるとされています。

近年では、ピロリ菌に感染していることがわかった場合は、積極的な除菌治療が推奨されます。ピロリ菌に感染すると必ずしも胃がんになるわけではありませんが、ピロリ菌に感染していることがわかった場合には、緊急性はないものの、なるべく早めに除菌治療を受けましょう。

図 ピロリ菌感染から胃がん発生の流れ



組合のオプション検査の活用を！

当組合では、一次健診のオプション検査として、血液検査によるヘリコバクターピロリ IgG 抗体検査が受けられます。



オプション種目	検査項目	受検場所	料金(円)
ピロリ菌検査	ヘリコバクターピロリ IgG 抗体(血液検査)	組合診療所	500
		組合巡回健診	500
		契約医療機関	500～*1
		補助金	500 *2

*1 受検する契約医療機関によって自己負担金額は異なります。申込みの際に医療機関に自己負担金額を確認してください。一部の契約医療機関では受けられない場合があります。詳細は組合ホームページを参照してください。また、契約医療機関で検査を受けられない場合は、補助金制度をご利用ください。
*2 受検者が500円を負担し、検査料金の残額につき2,000円を限度に補助金を支給します。申請方法については保健事業課にお問合わせください。

	有効な場合	受ける必要がない(受けないほうがいい)場合
<p>Check!</p> <p>血液検査によるピロリ菌検査が「有効な場合」と「受ける必要がない(受けないほうがいい)場合」があります</p>	<p>■過去に一度もピロリ菌検査を受けたことがない。 →特に50歳以上の方の多くは、幼少期の衛生環境によって、ピロリ菌に感染している可能性が高いとされています。</p> <p>■過去にピロリ菌検査で「陽性」だったが、除菌治療を受けていない。</p>	<p>□過去にピロリ菌の検査を受けた結果「陰性」(ピロリ IgG 抗体 3.0U/ mL 未満)だった。</p> <p>□過去にピロリ菌の除菌治療を受け、効果判定の検査で除菌が「成功」した。 →再度ピロリ菌に感染するリスクは限りなく低いいため、検査を受ける必要はありません。</p> <p>□ピロリ菌の除菌治療薬を内服して間もない、また、除菌判定の検査を受けていない。 →除菌が成功していても、失敗していても、血液中にピロリ菌の抗体が残っていることが多いので「陽性」の結果が出る場合があります。したがって、除菌治療が成功したという判断の指標にはなりません。</p>